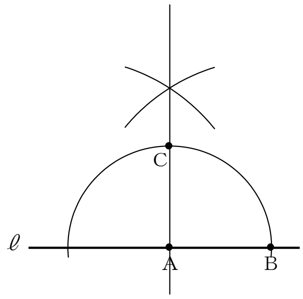
数学　採点のポイント

（31　一次・分割前期）

問題番号 配点	正　答　例	採点のポイント
$\boxed{1}$ 〔問９〕 配点 ６点	 	○基本的な作図の方法を用いて，点Ａを通り直線ℓ に垂直な直線を引き，ＡＢ＝ＡＣとなる点Ｃが正確に示されている。
$\boxed{2}$ 〔問２〕 配点 ７点	１個目とn個目の円の太線の部分の長さの合計は，$2\pi r\times\frac{240}{360}\times 2$となる。 また，2個目から$(n-1)$個目までの円の太線の部分の長さの合計は， $2\pi r\times\frac{60}{360}\times 2\times(n-2)$となる。 よって， $M=2\pi r\times\frac{240}{360}\times 2+2\pi r\times\frac{60}{360}\times 2\times(n-2)$ $=2\pi r\times\frac{4}{3}+2\pi r\times\frac{1}{3}\times(n-2)$ $=\frac{1}{3}\times 2\pi r\times\{4+(n-2)\}$ $=\frac{1}{3}\times 2\pi r\times(n+2)$ $\ell=2\pi r$ であるから， $M=\frac{1}{3}\ell\ (n+2)$	○図形の周りの長さが，文字を用いた式で適切に表されている。 ○式の変形ができ，適切に処理されている。 ○図形の周りの長さについて，$M=\frac{1}{3}\ell\ (n+2)$ が成り立つことが的確に示されている。
$\boxed{4}$ 〔問２〕 ① 配点 ７点	△ＡＢＰと△ＰＤＲにおいて， 四角形ＡＢＣＤは平行四辺形だから， ＡＢ∥ＤＣ 平行線の錯角は等しいから， ∠ＰＡＢ＝∠ＲＰＤ　・・・・・・・(1) 仮定から，ＢＰ∥ＱＤ 平行線の錯角は等しいから， ∠ＡＰＢ＝∠ＰＲＤ　・・・・・・・(2) (1)，(2)より，２組の角がそれぞれ等しいから， △ＡＢＰ ∽ △ＰＤＲ	○正しいと認められる事柄について，根拠を明確に記述し，仮定から結論を導く推論の過程が的確に示されている。

各学校において，採点のポイントを踏まえて『部分点の基準』を作成し，『部分点の基準ごとの点数』を定めること。

なお，受検者の実態等に応じて，次の例のように詳細な基準を定めることができる。

- 「○○について××が書かれている。」のように，具体的な内容を加えること。
- 「○○と△△が書かれている。（３点）」「○○が書かれている。（２点）」「△△が書かれている。（１点）」のように，段階を設け，段階ごとの点数を設定すること。
- 「誤字が一つ以上ある。（１点減点）」のように，部分点の基準を加えること。